

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 18 日現在

機関番号：62601

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2014～2017

課題番号：26590245

研究課題名(和文)教科固有の資質や能力の育成を目指すドイツ中等歴史の教育課程の研究

研究課題名(英文) Study on the curriculum of history in the secondary education in Germany aiming at nurturing the qualities and abilities unique to the subject

研究代表者

村瀬 正幸 (Murase, Masayuki)

国立教育政策研究所・教育課程研究センター研究開発部・教育課程調査官

研究者番号：90641572

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：独バーデンヴュルテンベルク州ギムナジウムの歴史教育課程の基準の内容分析を行い、それらと授業実践などを照らし合わせて検討した結果、生徒が使いこなす能力や獲得すべき概念用語の基準を示すことの有効性、生徒自身の課題意識を出発点にした主体的な歴史の探究を中心に教育課程を編成することの有効性、教科書で歴史的事実の内容説明とともに、そこで考察すべきいくつかの問いや資料を示すことの有効性などが明らかとなった。これらのことを、日本の中等教育における歴史の教育課程編成の基礎研究として役立てることができた。

研究成果の概要(英文)：I studied the criteria of teaching curriculum and lesson practice in history of Baden-Wuerttemberg. Suggestions obtained as a basic research of curriculum formation in history in Japanese secondary education are as follows. The effectiveness of showing the standard for judging students' abilities and for the conceptual terms which students should acquire. The effectiveness of making up the teaching curriculum which sets the students' awareness as a starting point and focuses on active historical inquiry. The effectiveness to show some questions and materials to consider along with explanation of historical facts in textbooks. I was able to use these facts as a basic research to create a curriculum of history in Japanese secondary education.

研究分野：教育学

キーワード：ドイツ 中等教育 教科教育学 教育課程 歴史教育 資質・能力

1. 研究開始当初の背景

時代の変化に対応する学力の実像が世界で問われている。この動きと連動して、日本においては、「確かな学力」育成の方策として、社会の変化に対応する資質・能力を育成する新しい教育課程創造のための基礎研究が進められている。

「新しい高校地理・歴史教育の創造」(平成23年日本学術会議)では、「歴史的知識の伝達」に偏重した教育から「歴史的思考力の育成を重視する教授法への転換」が唱えられている。

現行社会科・地理歴史科では、歴史的現象の意味や意義を解釈する学習や説明する学習、主題を設定し探究する学習等が重要視されている。生徒の発達段階を踏まえ、今後さらに初等・中等教育に一貫性を持たせ、段階的に思考力を育成していくことが求められている。

2. 研究の目的

ドイツでは、2004年から2014年にかけて、歴史的思考力の内実を定め、学習内容中心の教育課程からコンピテンス志向の教育課程に向けて改革が行われている。

この研究では、ドイツ・バーデンヴュルテンベルク州(以下BW州とする)の歴史の教育課程の基準(ギムナジウム用)である「歴史教育スタンダード」(以下スタンダードとする)の内容分析を行い、それらと教育現場の実践と照らし合わせ、教育課程編成に求められる課題を抽出し、日本の中等教育における歴史の教育課程編成作業において示唆を得ることを目的とする。

3. 研究の方法

スタンダードで定められた資質や能力の内容、それらと教育目標と内容との関連付けの在り方、ギムナジウムで使用されている歴史教科書での取り上げ方を明らかにする。

ギムナジウムの実地調査(授業参観と授業記録作成、指導と評価に関わる授業資料の収集、歴史教育実践者・スタンダード作成者・授業受講生徒等との懇談)を行い、教育課程の実効性を高めるための工夫・改善点を抽出する。

日独歴史教育実践者会議を開催し、研究で得られた示唆を手がかりに、今求められる日本における歴史の教育課程編成の在り方について協議し、課題を共有し、今後のあるべき改革の方向性を協議する。

4. 研究成果

ドイツでは、現代社会に求められる学力として、事象・方法・自己実現・社会における責任と連帯の4つの柱を設け知育に片寄らないバランスのとれた調和的な学力観を育成しようとしていること、それらを

軸に生徒がする経験と得るべき考え方、生徒が使いこなす能力や獲得すべき知識をスタンダードで明確にしていること、

BW州では、人間存在の歴史的根拠を認識する能力の育成を歴史教育の目標に掲げ、歴史を構築し結果を発表する能力を重視していること、生徒の発達特性を踏まえ、歴史の学び方、歴史の見方・考え方、今を生きる生徒が歴史を学ぶ意義、習得すべき能力目標と重点化すべき概念用語が2004版スタンダードに示されていること、

BW州ギムナジウム所属の生徒の歴史意識調査(自由記述式アンケート)から、多様な歴史資料の取り扱いや対話的・協働的な取組に対する生徒からの期待が高いということ、歴史授業の内容について、特定の主題を設定した歴史の考察や、生徒自身の課題意識を出発点にした主体的な歴史の探究に強い関心を抱いているということ、

BW州アビトゥア試験の問題の分析から、「歴史を物語る能力」(歴史を再現する能力・資料を正しく取扱い批判する能力、それらの結果を発表する能力)を15段階で数値化して評価し大学への入学資格としていること、スタンダードとアビトゥア試験は、指導と評価の一体化のもと深く関連付けられており、このことが歴史教育全体を規定していること、

授業参観や歴史教科書の分析から、資料から見いだした問いの考察を行い、その結果を生徒が説明(発表と記述)することが歴史授業では強く求められていること、教科書は自学自習用に参照される程度であり、授業では生徒は、教師が設定した単元や、生徒自らが主体的に設定した探究単元を中心に学習をしていること、教科書では歴史的事実の内容説明とともに、そこで考察すべきいくつかの問いや資料が示されており、振り返りのための既習事項の整理の箇所が設けられていること、

BW州2014年版スタンダードにみられる能力目標は、問いかける能力、方法活用能力、洞察する能力、方向付ける能力、専門的知識能力とされ、生徒の学習と評価の在り方を方向付ける行動指示動詞(判断する、解釈する、評価するなどの動詞とともにその中身が具体的に説明されている)がスタンダードに示されていること、そのことによって、BW州2004年版スタンダードに比較して2014年版スタンダードでは、評価規準がもっとも明確にされていること、などの特色を抽出できた。

歴史教育実践者、スタンダード作成者、BW州教育局担当官、教員養成系大学歴史教育講座担当者、ゲオルクエッカート国際教科書研究所員との懇談によれば、かつてドイツは知識教授中心の授業が行われていたが、特に1968年の世界的な運動以降、教師と生徒との間に、現在理解のための歴史の学びが必要であり、歴史を探究するための

見方・考え方などの方略をつかませることが必要であるとの認識が高まり、教科書の改善（ゲオルクエッカート国際教科書研究所が中心となり、歴史教科書評価のための第三者委員会が組織され、毎年、優れた歴史教科書の選定が行われているようである）が進み、現在の改革につながっているとのことである。

また、ギムナジウムに所属する生徒とのインタビュー調査では、歴史を学ぶ効用や今の授業課題について、「過去はそれ自体で興味深い。また、私たちの将来のためにも、学ぶ価値があると思う。そのほかに、今日の私たちの世界がどのように形成されてきたのかについても興味深い。」「今の歴史授業では、どの生徒も中世のある国について報告しなければならない。残りの時間は、特定のテーマについて先生から説明を聞いたり、自分たちでそれを調べたりする。これらの取組は、学校における評価やアビトゥアの受験対策と連動している。」などの意見を聴取することができ、スタンダードの内容と授業展開、ギムナジウムにおける評価とアビトゥアの受験対策が一体的に行われている様子を把握することができた。

これらの成果は、日独歴史教育実践者会議（日独歴史教育実践者シンポジウム、平成 27 年 8 月 1 日愛知大学名古屋校舎で開催）で共有した。会議の構成と発表者は、

「アクティブラーニング型学習を世界史授業に導入した 2 年間の振り返り～生徒の反応と今後の課題～（川島啓一）」「忘却に抵抗するドイツ～戦後ドイツ歴史教育の歩み」（岡裕人）」「日本の教育改革とドイツ～資質・能力の育成に着目する」（村瀬正幸）」「座談会～歴史教育でどんな資質・能力を育成するか～日独歴史教育対話」（野々山新、石川夏子他）である。これらの成果は、日本の中等教育における歴史の教育課程編成の在り方に関する基礎調査に生かされた。

また、今後の課題として、資質・能力を育成するための教員養成研修・教員研修のモデル化が必要であることが明確になった。特に、BW 州では、2016 年から、スタンダード作成協力者らが中心となり、2014 年版スタンダードの伝達講習会が予定されており、これらの研修内容を把握することが有効であるとの示唆を研修担当者から得ることができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 14 件)

・村瀬 正幸「資質・能力の育成と世界史授業～」文部科学省教育課程課編「中等教育資料」2015～2018 の各号 12 回分の連載

・村瀬 正幸「教科固有の資質・能力の育成を目指すドイツの歴史教育課程」、2016 愛知県世界史教育研究会編「世界史教育研

究（紀要）」

・村瀬 正幸「歴史的な見方・考え方を働かせて考察する」、2018 愛知県世界史教育研究会編「世界史教育研究（紀要）」

〔学会等発表〕(計 10 件)

・村瀬 正幸「歴史と記憶をめぐる諸問題～資質・能力の育成と歴史学習～」2015 北海道高等学校歴史教育研究会

・村瀬 正幸「＜日独歴史教育実践者シンポジウム＞歴史教育でどんな資質・能力を育成するか～日独歴史教育対話～」2015 愛知大学名古屋校舎

・村瀬 正幸「言語活動をグローバル・スタンダードでマネジメントする～資質・能力の育成と社会科系教科の学習～」2015（独）教員研修センター言語活動指導者養成研修

・村瀬 正幸「グローバル・スタンダードで歴史授業をマネジメントする」2016 島根県中学校社会科・高等学校地理歴史科公民科教育講座

・村瀬 正幸「知識のドネルケバブ・モデルと授業」2016 愛知県地理歴史科管理職会新たな価値を創造する 社会を生き抜くための能力」の育成のために

・村瀬 正幸「新たな価値を創造する～社会を生き抜くための能力の育成のために～」2016 教育方法研究会

・村瀬 正幸「深い学びに導く社会科系教科の授業過程をマネジメントする」2016 教員研修センター言語活動指導者養成研修

・村瀬 正幸「これからの歴史学習の在り方を考える 3 つの視点」2017 横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校(社会科)研究発表会

・村瀬 正幸「歴史的な見方・考え方を働かせて考察する歴史授業のデザイン」2017 東京都専門性向上研修＜社会・地歴＞

・村瀬 正幸「後期中等教育における歴史の授業改革」2018 東京都教育研究員地理歴史部会発表会

6. 研究組織

(1) 研究代表者

村瀬 正幸 (Murase, Masayuki)

国立教育政策研究所・教育課程研究センター・教育課程調査官

研究者番号：90641572

(2) 研究協力者

・岡 裕人 (Oka, Hirotō)

フランクフルト日本人学校

・Prof. Dr. Frank Meier

カールスルーエ大学

・Prof. Dr. Robert Meier

ゲオルクエッカート国際教科書研究所

・Prof. Dr. Maren Tribukait

ゲオルクエッカート国際教科書研究所

- Dr.Heiger Ostertag
女王シャルロツテギムナジウム
- I.Plienige
女王シャルロツテギムナジウム
- 割田 さとし (Warita, Satoshi)
青山学院大学
- 川島 啓一 (Kawashima, Keiichi)
同志社大学附属高等学校
- 廣川 みどり (Hirokawa, Midori)
千葉県立袖ヶ浦高等学校
- 角田 展子 (Tsunoda, Hiroko)
東京都立青山高等学校
- 磯谷 正行 (Isogai, Masayuki)
愛知県立岡崎高等学校
- 向井 恵子 (Mukai, Keiko)
愛知県立東郷高等学校
- 野々山 新 (Nonoyama, Shin)
愛知県立日進高等学校
- 石川 夏子 (Ishikawa, Natsuko)
愛知県立春日井高等学校